

[目 次]

2001・9

ページ

EUREKA 〈研究紹介〉	重力崩壊型超新星に於けるジェット状爆発の効果	長 滝 重 博 390
	RAINBOW干渉計の受信機開発と共同利用の開始	芝 塚 要 公 400
	見えてきた楕円銀河の幼年期	高 木 俊 暢 405
	X線による銀河団の構造と進化の系統的な研究 —銀河団規模での二重構造の発見—	太 田 直 美 414
書評	Cataclysmic Variable Stars	加 藤 太 一 423
シリーズ	《海外研究室事情 (21)》 Mullard Space Science Laboratory, Department of Space and Climate Physics, University College London 英国ロンドン大学宇宙 及び気象学科マラード宇宙科学研究所	堀 久 仁 子 424
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書	久 保 雅 仁 426
月報だより		427

[表 紙 説 明]

RAINBOW干渉計 (RAINBOW) とは、野辺山ミリ波干渉計 (NMA) と野辺山45 m望遠鏡を組み合わせた世界最高感度を誇るミリ波干渉計システムで、昨年度から共同利用が開始された。45 m鏡を加えた事によるRAINBOWの強力な集光力は、原始銀河や原始星円盤の探索、近傍銀河の微弱な分子輝線の検出等に最適である。表紙の写真はRAINBOWのアンテナ群 (上図)、NMAとRAINBOWで観測された近傍銀河NGC 3628の高密度分ガスである (左下図はNMA, 右下図はRAINBOW)。NMAでははっきりと分解できなかった高密度分子ガスの分布が明らかになっている。

(EUREKA「RAINBOW干渉計の受信機開発と共同利用の開始」参照)

表紙デザイン：松本成実